

平和と人権を 今こそ

上杉文代
(和歌山支部顧問)



和歌山の9日は忘れられない日

- 今立っているところも焼け焦げた
- でも私はその時、海辺の国民学校で神州不滅を説く教師でした。
- そして敗戦の日。
- 私は子どもたちに何も語れない教師でした。

勝ち抜く

山路御龍
青年学校

日高郡龍神宮



あの日から63年。

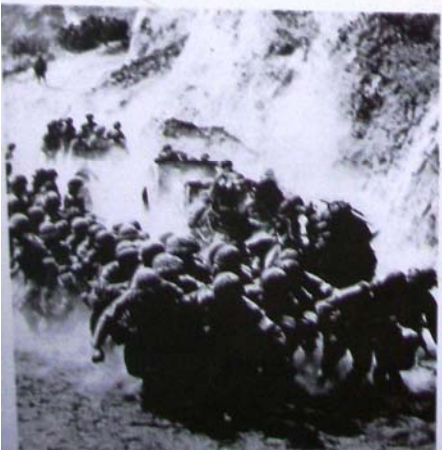
- あの虚脱から何を支えに生かされてきたのでしょうか。
- 大正生まれの私は十五年戦争の中で教育を受け、戦中戦後も教職にあった者として改めて戦争放棄の憲法の素晴らしさ基本的人権の大切さが身にしみみます。
- 子どもが飢え障害者は作られています。
- 「戦争放棄の九条こそ世界の宝」

障害者と戦争

富国強兵、軍拡への道は

障害者の人権無視

切り捨てる道であった



戦争は、障害者を社会
隅に追いやり、生きる権利
を奪い取りました。
同時に戦争は、幾万の新
たな障害者をつくり出しま
した。

手と足を

もいだ丸太に

して返し

鶴彬

だが歴代わが国の政府は、 この宝を大切にしてきたでしょうか。

- 日米安保条約ができると再軍備の道へ。
- 教師たちは「教え子を再び戦場に送るな」の声を上げた。
- 自衛隊が作られ、アメリカの水爆実験で久保山愛吉さんが被爆すると、日本原水協が生れ、母親運動が始まります。
- 教師たちは勤務評価反対で闘い、安保改定反対運動は全国に広がります。

その時、和歌山の視力障害者50人がその隊列にありました。

- ❁ 「差別は生活の事実の中にある」「差別からの解放」
- ❁ 大津では「この子らを世の光に」の実践の中から「人間発達の科学」が生まれました。
- ❁ 発達保障を理念とする「全障研」が誕生した



以来、私たちの運動は綱引きの歴史

- ◆ 旧憲法がいかに障害者の人権を無視したか
- ◆ 第1、就学免除猶予
- ◆ 第2、精神障害者を監護法によって座敷牢へ
- ◆ 第3、ハンセン病患者強制隔離
- ◆ 第4、国民優生法による障害者の断種強制
- ◆ その差別と偏見がどれだけ障害者を生き辛くしてきた
- ◆ でも私達はずいに養護学校の義務制を実現させ、ライフサイクルのすべてにわたって発達保障を達成すべく努力してきました。

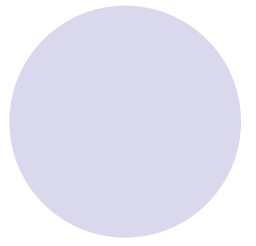
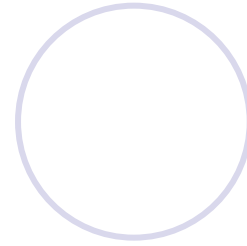
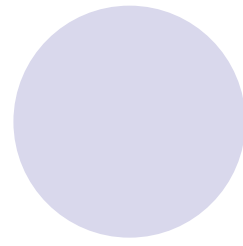
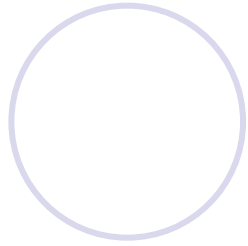
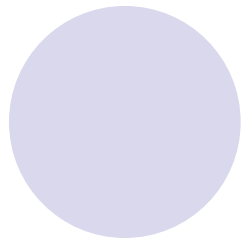
- 生きる権利を阻害されているのは障害者だけではありません。
- 発達を土壌を壊された「夜明け前の子どもたち」が作られています。



岐路。別れ道とは立ち止まり、自分で考えて自己決定するとき

- 「嫌」という自我が生まれる時
- 今大文字で描く一次元の発達という言葉を出しています。
- 21世紀を生きる新しい人として立ち上がりたい。
- 「発達とは矛盾をのり越えること」という言葉に励まされながら。





6月5日に難病と闘って
逝った、運動の先輩であ
る視力障害者浜端武さん
の提言



- 「人って変わるんや」
- 「文化を創って発達してきたんや」
- 「わしも闘って周りを変えてきた」
- 「あの頃より今は条件がある」

「変える希望を捨てないでほしいんや」



17歳から84歳へ